

## 膨らむ好奇心

# MESSAGE



半井小絵  
NAKARAI Sae

(撮影:知久さとし)

### プロフィール

兵庫県出身。2001年、日本銀行勤務から気象予報士に転身。2002年よりNHKの関東甲信越地方の気象番組を担当。2004年からNHK「ニュース7」の気象キャスターとして気象情報を担当している。テレビで気象キャスターを務めるかわら、気象や防災、環境に関する講演活動、小学生向けの環境教育も行っている。2008年、伊丹市をPRする「伊丹大使」に就任。著書に「半井小絵のお天気彩時記」「半井小絵の季節の小箱」がある。

「お空が泣いているの?」

会話ができるようになったばかりの幼い私が、雨を見て母に尋ねたとアルバムのメモに書き添えられています。小学生になっても、「晴れているのに、雨が降っているの?」と、お天気雨(きつねの嫁入り)が不思議でたまりませんでした。青空に広がる虹の上を歩けそうな気もしたものです。

月日は流れ、私は気象予報士の資格を取得し、現在はNHK「ニュース7」で月曜日から金曜日の気象情報のキャスターをしています。もちろん虹の上を歩けないことはわかっています。お天気雨の仕組みも知っています。お天気雨には、少し離れたところで降った雨粒が風に飛ばされてくる場合や、雨粒が地上に達するまでに上空の雲が消えてしまう場合などがあります。科学的なことは理解できるようになっても、「天気って不思議で、神秘的だな」と思っていた頃の気持ちは忘れたくありません。みなさんの中にも、子供の頃見た思い出の風景に、天気が彩りを添えていたという方も多いのではないのでしょうか。

私たちの生活は気象と切り離すことはできません。「洗濯はできるか」「服装はどうしようか」「気持ち晴れ渡る」「人生は雨のち快晴」…。天気は日常の生活に大きく関係し、心情から人生にまでたとえられるのです。

キャスターとしてこんな身近な気象について、お伝えできる幸せを感じています。そのため「ニュース7」の気象情報では、視聴者の方が何を知りたいのかを真っ先に考えるようにしています。実は、NHKでは気象キャスターが画面で使用する絵や話す内容までをすべて自分で準備するのです。原稿を書く専門家が別について、その人が書いた原稿を、気象キャスターは読んでいただけだと思われているようですが、そういうわけではありません。ですから、いかにわかりやすくお伝えするか、毎日頭を悩ませています。刻一刻、形を変える雲、今と同じ大気の状態は、その瞬間しかないのです。そのため災害が起こりそうな場合は、ことさら慎重に資料を解析し、解説内容を確認します。特に梅雨から台風シーズンは、緊張が高まる時期で気を引き締める毎日が続きます。

最近は、テレビで気象情報をお伝えするだけでなく、テレビの前にいらっしゃる視聴者とのつながりも大切にしたいと思っています。講演などで地方に出かけたときに、地元の方とお話する機会があります。そんな折、その土地特有の天候を知ることができるのです。「あの山の方向から

雨雲がくると激しい雷雨になるのです。きょうは降りそうですよ」とか、「かまきりが高いところに卵を産むと雪が多いのですが、今年は低めだったので雪が少ないかもしれません」ということも聞きました。

さらに最近は、地球温暖化に関心のある方が多いことを実感します。山形の農家の方からは、ここ数年の高温障害でサクランボの実がやわらかくなってしまったため、暑くてもパリッとした歯ごたえになる品種を改良していると教えていただきました。実際に、農園に行き、パリッとした食感を味わうことができました。こんな経験から地元の声を聞く大切さを感じています。やはり、『百聞は一見に如かず!』。できるだけ多くの体験をするよう心がけています。

群馬県の雪深い山でかんじきを履いて、山奥にある洞窟の氷筍を見にいったことがあります。「氷」の「筍(たけのこ)」と書いて「ひょうじゅん」。その名のとおり、筍のような氷の柱が100本ほど洞窟の中で仲良く並んでいました。洞窟の上からぽたぽた落ちる滴が凍りついてできたものです。その年の天候によって高さが変わるのだそうです。

気象の仕事をする中で、いろんな場所に出かけたいという好奇心が、ますます膨らんでいきます。その好奇心の原点は子供の頃に見た故郷の空でした。これらの経験を気象情報に生かして、キャスターとして成長していきたいと思っています。

神奈川県 真鶴(写真:初芝成徳)